

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：23901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2016

課題番号：24730541

研究課題名(和文) 2歳児の表象機能の発達及び自己の様相に関する発達モデルの構築

研究課題名(英文) An attempt to construct the developmental model of children's self and representational function in 2-year-olds

研究代表者

瀬野 由衣 (SENO, Yui)

愛知県立大学・教育福祉学部・准教授

研究者番号：10610610

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2歳から3歳にかけての自己の発達および表象機能の発達について考察することを目的とした。遊び場を観察対象として、家庭での母子相互作用および、保育園での仲間同士の関わりを分析した結果、2歳後半から3歳頃に自らの視点をもって他者と向きあう主体が形成されることが示唆された。仲間同士での遊びでは、3歳頃より模倣することを宣言したり、模倣することを要請する関わりが新たに観察され、その発達の意味を考察した。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the developmental process of children's self and representational function in 2- to 3 year-olds. From the observation at play in a home and a nursery school, we found that the perspective of self was formulated about the age of 3-year-olds. 3-year-olds started to declare imitation and request the other child to imitate. The developmental meaning of this behavior was discussed.

研究分野：発達心理学

キーワード：2歳児 自己 表象 自他理解

1. 研究開始当初の背景

発達研究において2歳代は「暗黒の時代」と称されてきた。しかしながら、近年、実験や観察を通して2歳児に関する知見が蓄積されてきている。

実験研究では、表象機能の本質であるシンボルの二重性の理解(シンボル(例:積み木)はシンボルそのもの(積み木)であると同時に、シンボル以外の何か(電車)を表す)の問題が挙げられる。例えば、シンボル側が極めて魅力的な条件を備えた場合(自分の姿が映し出されたライブビデオ自己映像や魅力的なおもちゃ等の外的シンボルの場合)に、2歳児ではシンボルをシンボルとして利用することが困難になってしまう(e.g., DeLoache, 2002; Povinelli et al., 1996)。一方、観察研究で明らかにされる2歳児の姿は、自己主張が強い「恐るべき2歳(terrible two)」の一面と、「いく」と「くる」など能動-受動の混乱(木下, 2008)に現れる地に足のつかない言語使用の実態である。さらに、2歳代は仲間同士で互いの動きを映しあう相互模倣がピークとなる時期であり(Nadel, 2002; 無藤, 1997)、表象レベルで他者に同一化しやすいという特徴がある(瀬野, 2010, 2011)。

以上の知見はいずれも2歳児の姿を捉える上で示唆に富むものであるが、現時点でこれらを統合する発達モデルの構築には至っていない。本研究ではこれらを統合し、2歳児の本質は「(主体的に振る舞おうとするが)自己そのものが確固としておらず脆弱なために、環境の外的な条件次第で自己が外の世界に埋没しやすい点にある」と考えた。さらに、この時期を脱する内的な契機として「実行機能の発達」が関与することを想定していた。

具体的には、4つの表象理解に関わる側面(自己像、外的シンボル理解、言語発達、自他関係)に焦点を当て、実験と観察を通して2歳から3歳にかけての自己の発達と表象機能の発達について考察したいと考えていた。

2. 研究の目的

2歳から3歳にかけての自己の発達および表象機能の発達について考察するため、遊び場を観察対象として、以下の二つの研究を行った。

(1)1歳10ヶ月から2歳半に至る自己の発達を、母子相互作用場面での観察を通して検討した。遊び場面で母子の間で立ち上がる共有テーマの特徴と、児の言語発達(「述べる」行動)との関連に着目し、1歳後半から2歳半に至る自己発達の過程について考察した。

(2)2歳児クラス後半の2歳後半～3歳半前後の子どもを対象とした自由遊び場面での観察研究を行った。本研究では、主に3歳前後の変化に着目し、遊び場面での模倣を介してつながりあう自他関係が半年間でどのように変化するのかに注目した。

3. 研究の方法

(1) 母子相互作用場面での観察研究

対象児が1歳10ヶ月時点から2歳半までの間、毎月1回、自宅に出向き、約1時間～1時間半の間、自由に母子で遊ぶ場をビデオ録画した。これらの遊び場面に加えて、母親にインタビューを実施し、分析対象の一部とした。

(2) 2歳児クラスを対象とした観察研究

愛知県内の保育所の2歳児クラス17名を対象とし、半年間の縦断観察を行った。観察は、月に1～2回、計9回であった。主に自由遊び場面での参与観察を行った。移動等の自由遊び場面以外でも相互交渉が行われた場合は、これらも分析対象に含めた。記録はその場で筆記記録し、観察直後にフィールドノートを作成した。

4. 研究成果

(1) 母子相互作用場面での観察研究

母子の自由遊び場面での観察を通して、1歳10ヶ月から2歳半に至る過程で遊びの中でどのような共有テーマが立ち上げられているのか、そのテーマが成立する背後にある児の認識世界の特徴について月齢ごとの特徴を考察した。その結果、遊びの中での共有テーマは変化していくことが示された。さらに、遊びの質的变化と連動して、児の述べる行動からみる出来事を分節化する仕方が変化していることがわかった。

まず、2歳前後(1歳10ヶ月と2歳0ヶ月)は模倣が主である時期であり、母親の行動に行動レベルで同一化する傾向が強かった。2歳前後は、発話としても「完了」や一つひとつの活動の区切りに言及することが主たる時期であった。一つひとつの動作を母親の模倣をしながら遂行し「同じように」行動することが、この時期の特徴といえる。

その後の2歳2ヶ月、2歳3ヶ月には、母親の行動レベルの模倣は影を潜め、自己確認的な型のある遊びの形態が幾つかみられるようになった。ここでは、見本と一緒にするという新たな目標共有を伴う遊び方も出現した。特にこの時期に着目したいのは、対比的認識の発達が自他視点の分化という点で飛躍的に発達した点である。この時期は、母親に支えられながら、「見る側と見られる側」に分かれる役割交替をふくむ共有テーマが出現した。2歳3ヶ月の時点では、本人のみで「相手に見えるようにする」という他者視点を明確に理解した行動は困難であった。母親が「どのようにしたら他者に見えるか」を具体的に援助しており、こうした母子のやりとりの積み重ねが視点の違いを明確に理解する一助となることが推察された。

このように、2歳代前半は、視点レベルで対比的認識が形成されていく途上であり、「自他の視点を切り分けられない姿」が、「2

歳児の自己の脆弱性」として現れやすいことが本研究でも確認されたといえる。

2歳5ヶ月には、久保田(1993)や木下(2008)で指摘されている重要な変化が現れた。その一つは、遊びを共有する際に謝罪と問責という責任の所在を明確にしようとする態度が現れたことである。さらに、2歳5ヶ月に「ホラ アンパンマン ダッタ ッショ」や「コッチダッター」「オイテッター」のように、自分の最初の予測と実際に生じた結果とを対比させて意味づける出来事への自己関与的態度が現れた。

以上の変化をふまえ、本研究では、2歳半を「自分の視点で出来事に向きあう主体(自己)が形成される出発点となる年齢」として考察した(瀬野, 2015)。

(2) 2歳児クラスを対象とした観察研究

これまでに筆者が行った研究(瀬野, 2010, 2011)から、2歳児クラス後半の半年間で観察される仲間同士のあそびの形態は、互いの動きを模倣する相互模倣から、言語を主軸にしたごっこ遊びに推移することが示されている。先述した研究(瀬野, 2015)においても、2歳半頃に自分の視点で出来事に向きあう主体が形成され始めることが示唆された。

本研究では、これらの諸事実をふまえ、子ども同士の関係性や関わりがより多く出現すると考えられる保育園の2歳児クラスを対象に観察を行った。その結果、瀬野(2010, 2011)と同様に、模倣的なやりとりは観察されたが、本研究では、新たに観察された「言葉での約束事を含む模倣」を含むやりとりに着目し、その発達の意味を考察することを主な目的とした。約束事を含む模倣は、他者への要請や宣言を伴う模倣、教える発話を伴う模倣、言葉あそび、の三つに分類された。具体的には、下記の事例が該当する。

<要請や宣言を伴う模倣> パタンあり
パタン 自分 他者(模倣するように他者に要請)

事例1: りくとまちこのやりとり。りくがままごと用の白いボールを頭にかぶっている。りくがまちこに「ぼうし、かぶりなさい。かぶらないとだめ」と言う。まちこが白いボールをかぶるとりくがまちこに笑いかけ、二人で嬉しそうに歩く。

パタン 自分 自分(他者の模倣をすることを自ら宣言)

事例2: ...ゆうきが「これベッド」といって、赤い紙製のレンガに見立てられた四角の段ボール箱を並べていく。それを見たつかが「つっちゃんは、こっちがいいわー」といって青いレンガを並べてゆうきと一緒にのものを作る...

<「教える」発話が伴う模倣>

事例3: ...お皿に泥の砂を入れて固くし、

それをつるつるにしたり、皿の端をくりぬいたりするあそびが続いている...

ゆうかとはるかとは水場近くで、はなえは、砂場近くの最初の場所でやり続けている。はるかは、砂の端をきれいにくりぬいていて、ゆうかは、しきつめた砂の表面をつるつるにしようとしている。ゆうかがはるかのお皿を見て同じようにやってみるが難しく「できない」という。それを見ていたはるかは「ちがうよーこうやって砂やって、やるんだよー」と実際に砂をかけてぬぐう仕草をやってみせる。ゆうかはそれを見て同様にやってみる。

<言葉あそび>

事例4: まほが言ったことを少し変化させてはなえがいうやりとり。まほが「まほちゃん」というと、はなえが「まほちゃん」といって笑う。続いてまほが「はなえちゃん」というと、はなえが「はなほちゃん」、まほが「かば」というとはなえが「かばこちゃん」という。まほが「おしり」というとはなえが、「おしりー?」といって二人で笑い合う。

約束事を含む模倣では、子どもが他児との間で「()というやり方で」しよう」という共有目標(Tomasello, 2014)を作り出している点に特徴があると考えられる。これらは、Tomasello(2014)が述べる3歳児の特徴にも合致している。本研究では、こうした相互作用がみられる3歳~3歳半前後を「joint goal」を共有する存在として、「わたし」と「あなた」を強く意識するようになる発達の時期」として考察した(瀬野, 2016)。

本研究全体として、2歳半ないし3歳頃に、自らの視点をもって他者に向きあう主体が形成されることが示されたといえる。とりわけ、瀬野(2016)において模倣することを宣言したり、模倣することを要請するタイプの言語的関わりがみられた点は重要であると思われる。これらは、「すぐに模倣しない」という抑制を伴う関わり方とも考えられ、実行機能の発達とも関連している可能性があると思われる。今後の更なる検討が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

瀬野由衣 (2015) 1歳10ヶ月から2歳半に至る自己の発達 - 母子相互作用場面での共有テーマの特徴と「述べる」行動に着目して、愛知県立大学教育福祉学部論集, 64, 49-62. (査読なし)

瀬野由衣 (2015) 二~三歳児にとって魅力的なあそびとは: 集団あそびにおける共有テーマの特徴に着目して、季刊

発達（ミネルヴァ書房），第 144 号，
pp.57-62.（査読なし）

瀬野由衣（2012）2 歳児の発達研究の展
望，愛知県立大学教育福祉学部論集，61，
pp.79-90.（査読なし）

〔学会発表〕（計 5 件）

瀬野由衣（2016）2～3 歳児は遊び場面で
他児とどのように共有関係を形成するか，
日本発達心理学会第 27 回大会論文集
（北海道大学 北海道札幌市 2016 年 4 月
29 日）

瀬野由衣（2015）他者とかかわる心の起
源と発達：2～3 歳児の心的世界の不思議
に迫る：“イッショに”の発達の變遷
に焦点を当てて，日本発達心理学会第 26
回大会発表論文集 RT2-4（ラウンドテー
ブル，話題提供）（東京大学 東京都文京
区 2015 年 3 月 20 日）

瀬野由衣（2015）1 歳後半から 2 歳半に
至る自己の発達（2）母子相互作用場面で
の「述べる」行動に着目して，日本発達
心理学会第 26 回大会発表論文集 P1-21
（ポスター発表）（東京大学 東京都文京
区 2015 年 3 月 20 日）

瀬野由衣（2013）1 歳後半～2 歳半に至る
自己の発達（1）母子相互作用場面で
の「述べる」行動に着目して 日本発達心理学会
第 24 回大会発表論文集，p.366（明治学
院大学 東京都港区 2013 年 3 月 16 日）

瀬野由衣（2012）ことばの交換から生ま
れる 2～3 歳児の遊びの世界，日本保育
学会第 65 回大会発表論文集，p.641（東
京家政大学 東京都板橋区 2012 年 5 月 4
日）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瀬野 由衣 (SENO, Yui)

愛知県立大学・教育福祉学部・准教授

研究者番号：10610610